145 アングレーム国際漫画祭（2023 年 1 月 26 日）

１月 26 日から 29 日まで、アングレーム国際漫画祭が開催されます。今年は、記念すべき 50 回目です。このヨーロッパ最大規模の漫画祭は、世界各地から毎回 20 万人以上の漫画ファンが集まることで知られています。毎年、様々なカテゴリーの作品が表彰されています。フランス語で出版された外国の作品も対象となるため、これまでにいくつもの日本の漫画や日本人漫画家が表彰されました。

フランスで Manga と言えば、日本の漫画を指します。1990 年代後半から、フランスで日本の漫画の人気が高まりました。そして、2020 年以降、新型コロナウイルス感染拡大によるロックダウンが、漫画の売り上げ増加を後押ししました。ある調査会社の統計によると、2021 年にフランスで売れたバンド・デシネ（フランス語の漫画作品であるバンド・デシネ、アメリカのコミック、日本の漫画（Manga）を含む広義の漫画）は、8,900 万冊にのぼります。この数字は、売り上げを伸ばした 2020 年と比べて、売上高は５割増、販売数は６割増になったと言います。また、バンド・デシネ（広義の漫画）は、フランスの出版物の約４分の１を占めるまでになりました。そして、フランスで売れたバンド・デシネの約半数が、日本の漫画だそうです。フランスは、日本以外で日本の漫画が最も多く読まれている国だと言われています。フランスでこれだけ多くの漫画が読まれていることに、日本人として驚きを隠せません。

アングレームに話を戻すと、現在ではアングレームは漫画祭の開催地として知られていますが、アングレームは、歴史的には国王フランソワ一世を輩出したヴォロワ=アングレーム家の領地でした。高台にある町には古い城壁が残されており、市役所はかつてのアングレーム伯爵の城を改築した建物で、中世の面影を感じさせます。

なぜ歴史あるアングレームで漫画祭が開催されるようになったのか、少し不思議な感じがしました。アングレームの町の中心部には、シャラント川が流れています。豊富な水源があることから、19 世紀にアングレームでは製紙業が盛んになりました。現在でも、当時の製紙工場跡が残されています（写真右）。アングレームが漫画の町になったきっかけには、どうやら製紙業で栄えた歴史があったことが関係しているようです。

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

アングレームには、ヨーロッパで唯一の漫画美術館があります。ワイン倉庫を改装して作られた美術館には、世界各地から集められたバンド・デシネのコレクションが展示されています。もちろん、日本の漫画を紹介する展示スペースもあります。美術館の中だけでなく、街中を歩いていても、漫画を楽しむことができます。絵が描かれた建物の壁がいくつもあるだけではなく、ゴミ箱にもイラストが描かれているのは、さすが漫画の町だと思います。

漫画祭の期間中は、市内で漫画に関する多数のイベント（展覧会、講演会、インタビュー、サイン会など）が開催され、まさしく漫画一色になることでしょう。日本の漫画の入賞やフランスのファンに会いに来る日本人漫画家に期待したいと思います。

アングレーム国際漫画祭 https://www.bdangouleme.com/#（英語）
アングレーム漫画美術館 http://english.citebd.org/spip.php?article9（英語）